

2024（令和6）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1491600027	事業の開始年月日	平成23年11月1日
		指定年月日	平成23年11月1日
法人名	医療法人社団 愛友会		
事業所名	グループホームあいかわ		
所在地	(243-0303) 神奈川県愛甲郡愛川町中津2328		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員 計 18 名 ユニット数 2 ユニット	
自己評価作成日	令和6年11月6日	評価結果 市町村受理日	令和7年2月14日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当グループホームでは、当たり前前の生活を自分らしく、安心して過ごせるホーム（家）を目指しております。ご利用者の今までの人生を大切に、温かい心で寄り添えるパートナーになれるよう、また、健康で過ごせるよう小さな体調の変化を見逃さないよう、日々努めます。緑多い自然に囲まれ、散歩の道すがら、出会う地域の方達との会話。ご利用者のこれからの人生の良きパートナーになれるよう務めています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和6年11月25日	評価機関 評価決定日	令和7年1月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、小田急線本厚木「厚木バスセンター」または相模線海老名「海老名駅西口」バス停から神奈川中央交通バスで約35分「春日台一丁目」下車、徒歩10分ほどのところにあります。相模川沿いの洪積台地に位置し、3階建て建物の2、3階部分がグループホームです。1階には同一法人の小規模多機能型居宅介護事業所を併設しています。

＜優れている点＞

利用者が望むことを大切に、夢や希望がかなえられるよう本人本位の支援に向けて取り組んでいます。近隣民家の庭一面に咲くバラの花の鑑賞に出かけたり、ドライブで花見をするなどして季節を感じられるようにしています。相模川沿いで開催される花火大会も楽しみの一つです。毎月行われるキーボード演奏を階下の施設で聴いたり合唱することや、リビングでトランプカードによる占い、七ならべゲーム、ボトルキャップを利用した手作りパズルに興ずるなど思い思いに楽しめるよう、職員は見守りや支援をしています。六倉自治会開催の秋祭りには、室内飾りの制作を依頼され、天井飾りや花飾りを利用者と手作りして提供しています。盆踊りには花笠の貸し出しを行うなど地域に根差した協力関係を築いています。

＜工夫点＞

誕生日会の催しは、一人ひとりの思いを日ごろの生活から汲み取り、趣向を凝らして行うようにしています。誕生日は普段の食事を折詰に盛り付け、海老などを加えて祝い膳風に仕立て、テーブルに風船を飾るなどして祝っています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	12 ～ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	17 ～ 23
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	グループホームあいかわ
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1, 毎日ある
		○	2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
		○	3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		○	2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	入職時には必ず事業所理念を説明しており、玄関に掲示し、身近に理念を感じて実践に繋げるようにしています。	開設以来の理念を継続しており職員に浸透しています。事業所理念と6項目のケア理念を共有し、日々の支援に繋げています。理念の一つに「あなたの望むことを大切に夢や希望がかなえられるよう努力します」があり、実践に向けて取り組んでいます。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近隣で行われているどんど焼きに参加しました。子供神輿に協力してもらい、駐車場で披露してもらいました。花火大会をご近所の方と一緒に鑑賞しました。自治会の秋祭りに参加しました。飾りのお花を作成しました。	事業所の隣に近隣住民の畑があり、季節野菜などを収穫させてもらっています。秋は歩道の落葉を利用者と一緒に清掃しています。自治会の盆踊りや秋祭りに使用する飾り物の制作を依頼され、行事の盛り上げを一緒に手伝っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	中学生の職場体験を受け入れしています。今年も2名の受け入れがあります。また近隣住民からの相談に対応し、介護保険の申請やサービスの相談等を受けています。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月ごとに開催しています。民生委員、地域包括支援センター、近隣住民の方にご参加いただいています。事業所報告書をお渡しし、行事や事故、入退去当施設の現状をご報告し、ご理解をいただいております。	近隣の住民や老人会々長、六倉行政区長、民生委員、地域包括支援センター職員など地域に関わりの深いメンバーが出席し、報告と意見交換を行っています。区長からは情報提供や行事に使う飾り物の制作依頼もあり、地域に根差した関係を築いています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	書類申請時等に最近の状況や困りごと等の相談をしています。	愛川町役場の高齢介護課が窓口となっています。認定更新や感染症ワクチンの無料接種申請などの書類提出時にも窓口担当者とは気軽に相談できる関係にあります。行政から生活保護者の受け入れ要請も多くあり可能な限り意向に沿うよう取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	年に2回の研修を実施しています。「虐待の目チェックリスト」等のような行為が虐待にあたるのか周知に努めています。「身体拘束チェックリスト」によりどのような行為が拘束にあたるのか確認しています。	身体拘束で禁止されている行為の理解度を確保するため「身体拘束チェックリスト」により振り返りを行っています。11項目の禁止事項について再確認し職員間で話し合っています。研修は年2回実施し、出席できなかった職員はビデオ映像による視聴を行い、漏れのないようにしています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	年に2回の研修を実施しています。「虐待の目チェックリスト」等のような行為が虐待にあたるのか周知に努めています。問題があれば注意喚起をしています。	高齢者虐待防止に関する研修は「虐待の目チェックリスト」を使い徹底しています。不適切な言葉遣いがあった時はその場で確認して話し合っています。与薬に際して無理な促しや職員自身の都合で行うことがないよう指導しています。委員会など義務化された措置について実行しています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度を活用しているご利用者様がいらっしゃいます。また現在申請中の方もいらっしゃいます。ご家族や地域包括支援センターの方が対応してくださいました。今後は自分たちでも活用できるようにしていきたいです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入退去の際は利用者様やご家族様に十分な説明を行い、ご理解・ご納得をしたうえでのご利用開始を心掛けています。また質問等は随時受け付けており、いつでも不安点が解消できるよう努めています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	様々な意見を気軽に伝えるよう玄関に意見箱を設置しています。また電話や口頭にて得られた意見や要望に対し、管理者・職員ともに情報を共有し、運営に反映するようにしています	家族の面会時に要望などの発言があった場合には管理者にも直接伝えるよう依頼しています。管理者の携帯電話番号を家族に伝えてあり、いつでも連絡ができるようにしています。意見箱を玄関に設置し開封は法人が行い対応しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	法人では職員専用の意見箱を設置し、職員の意見や要望を聞く機会を設けています。また意見箱には鍵をかけ、法人本部でしか開封できないように配慮しています。	日頃から管理者は職員から気軽に意見や要望が出せるよう接しています。毎月のケアカンファレンスでも聞く機会を設け、個別に意見がある際には必要に応じて面談をしています。計画作成担当のフロア責任者にも提案が容易にできる関係があり、意見の反映に努めています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者は必要に応じて個人面談を実施する等状況把握に努めています。	勤務シフトの編成に際しては、それぞれの職員の体調や得手不得手、希望に配慮しながら作成しています。夜勤中心の職員との意思疎通、連携の漏れがないよう引継ぎ時間を設け、申し送りを徹底しています。休憩のためのプレハブを建屋外に設置し就業環境を整えています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	無資格者にはオンラインによる研修を義務付けており、現在の在職している無資格者職員はすべて研修を終了しています。また月1回研修を実施しています。	年間の研修計画により必要な研修を月ごとに設定しています。スキルアップのための研修を希望する職員には費用の一部を負担する制度があります。入職時の新人にはベテランの職員がOJTによる実務指導を行い、以後も継続してスキルアップを支援しています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域ケア会議等に参加し、交流する機会を得ています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービスの利用を開始する段階で、ご家族様やご本人より情報を得て、職員間でアセスメント情報を把握し、ご本人が安心して暮らしていけるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご自宅での様子や困りごと、不安、要望等を聞き、信頼関係を築けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	初期対応においてはご本人とご家族双方から話を聞き違いを把握し、「その時」必要なサービスを模索しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	各ご利用者様の心身状態に応じて、役割をもって過ごしていただいています。各々得手不得手を把握し、力を発揮できるよう配慮しています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の心身状態にも注意を払い、ご家族の思いも組み込んで必要なサービスを提案させていただいています。介護負担が増大しないよう注意しています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族とお散歩に行かれたり、外出、面会をしています。	知人、友人の来訪時には居室に招き落ち着いて話しが出来るように配慮しています。友人と一緒に外出することもあります。日用品の買い物に近くのスーパーマーケットへ同行しています。遠方への墓参りは家族と出かけ、関係性が途切れないよう支援しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	個々の特性や症状、相性等を考慮して席の配置等を工夫しています。ご利用者様、スタッフが関わりあえる距離感を大切にしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	終了後もご家族や次施設、病院等に現状確認を行っています。また契約終了後もその後の経過等をお話しに来訪していただくことも多いです。また転居した先での困りごとや対応に苦慮している等の相談にも		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活において会話や行動等に気を配り、ご本人の内にある「思い」とくみ取れるよう日々努めています。	入居時にこれまでの暮らしや生活環境などを利用者本人や家族より聞き取り、利用者の思いや意向を把握するよう努めています。また、入居後は事業所での日常生活の会話や行動に気を配り、利用者の思いや意向を汲み取り、それらを日々のケアに活かしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人やご家族様より聞き取りを行い情報収集に努めています。また得られた情報はスタッフ間で共有し、日々のケアに活かすようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個々の心身状態や能力等について各スタッフが気が付いたことや対応について、常に報告し合い、状態把握に努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	一か月に一度はケアカンファレンスを開催し、スタッフ間で意見を出し合い、情報共有に努めています。ご家族やご本人等の意見も反映させ、現状に即した介護計画書を作成しています。	日々のケアにおける変化や気づきを申し送りノートで職員は共有しています。毎月ケアカンファレンスを開催し、利用者個々人のケア方針を確定しています。半年に1回、または必要の都度介護計画を見直し、区分変更更新に役立てると共にその内容を家族にも伝えています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人記録に水分・食事・排泄・服薬・生活の様子等を記録し、現状の把握に努めています。また、申し送りノートやケアカンファレンス会議等で情報を共有しながら柔軟な対応を心掛けています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいます。	外部受診等、ご家族が対応できないとき等は当方にて対応しています。またその時々に応じて職員間で情報を共有し、柔軟な支援に取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	役場にも頻回に来庁し、新しい取り組み等があれば利用していきます。また地域の方々や、ボランティアの来訪等ご利用様が暮らしを楽しむことができるよう支援しています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	当施設の運営は医療法人となっているため定期的な往診・一般検査・訪問看護・訪問歯科を実施しています。また専門外の受診には外部受診にて対応しています。	法人傘下のクリニックをかかりつけ医とした医療体制のもと、訪問診療、一般検査、訪問看護及び訪問歯科を行っています。対応できない診療科は外部で受診しています。入院が必要な場合は、地域の総合病院が対応しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	体調面や変化等日常的な関わりの中で得た情報をスタッフが把握し、相談し共有しています。また褥瘡予防の方法や安全な体位変換等の指導をいただいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中はご家族や病院担当者と連絡を密に取り、現況の把握に努めています。病状によっては担当者・家族と相談の機会を設け、今後の対応等について検討しています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所時に重度化した場合や終末期に向けた方針や事業所として対応ができることについて説明をし、共有しています。状況変化に応じてご家族様の気持ちが変わることもあるので、都度状況を説明し、対応を検討しています。	事業所としての重度化や終末期の対応方針を入居時に説明し、合意を得ています。ターミナルケアの段階で、対応方針を再確認の上、共有しています。職員は、主治医の指示に基づきカンファレンスで看取り対応方法を確認の上、ケアに活かしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時連絡先や避難経路の掲示をしています。また消防署点検や警報器点検のタイミングで火事や地震を想定した避難方法の確認・シュミレーション等を行っています。また急変時の対応についてチャート記載し、冷静に対応できるようにしています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	ご利用者様にも参加していただいておりますが、安全面を考慮して日中での実施となっています。	火災を想定した避難訓練を実施しています。また、感染症や大地震などの災害を対象としたBCP(業務継続計画)に基づく机上訓練も実施してそれぞれの訓練での気づきを抽出し、課題を共有しています。非常食や簡易トイレ、寒さを凌げるような非常用備品も備蓄しています。	今回の避難訓練では各階の踊り場への避難となっていますが、次回の訓練においては消防署の指導の通り、各階のベランダへ避難する訓練が期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	事業所理念、ケア理念、職員行動指針を掲示し、出退勤時に確認ができるようにしています。	人格の尊重とプライバシーの確保に向け、倫理および法令順守に関する研修を年に1回実施しています。具体的なプログラムとしては、介護業界のコンプライアンスや順守すべきルールなどを中心とした内容となっており、学んだことを日々のケアや接遇に活かしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	積極的に声掛けを行い、本人の意思を反映できるように努めています。また日常生活において行動にも注視し、声にならない思いもくみ取れるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	フロアで過ごす方、「食後は居室で」等各々の習慣や希望に合わせた対応を心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご自分で洋服を選んでいただいています。また好みに合わせた服を持ち込んでいただいています。訪問カットの際は美容師さんとご本人で相談して髪型を決めていただいています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	野菜の下処理やお茶の準備、配膳等各ご利用者様が出来る範囲で職員と一緒にを行っています。また施設内で調理し、音や香り等五感を刺激し、食への興味を引き出しています。	献立とレシピ、食材は外部業者から提供を受けています。調理を事業所で行うことにより、音や香りで五感を刺激し、食への興味を引き出すという地道な努力を継続しています。また、誕生日や季節のイベント時の行事食は事業所ならではの工夫を施しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食材・献立は外部に発注し、栄養バランスのとれた食事が提供できるようにしています。また嚥下や口腔状態に応じて刻み食やトロミ等の対応を心掛けています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後個々に応じた口腔ケアを実施しています。月4回の訪問歯科の際に助言・相談・指導を受けています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を活用し、排泄パターンの把握に努めています。適切なタイミングで声掛けを行い、自立に向けた支援を行っています。	排泄はトイレで行うという基本認識のもと、利用者の排泄支援を行っています。介護ソフトで排泄記録を管理し、排泄パターンの把握に努め、昼間は適切なタイミングでの声掛けを行っています。夜間は熟睡時を除き、2時間おきに排泄を促すようにしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄チェック表を活用し、排泄パターンの把握に努めています。排便がなければ歩行により腸の運動を促進したり、医師からの処方下剤を適用する等し、便秘予防に取り組んでいます。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴は楽しみにしているご利用者様が多いため個別に対応しています。緊急時でも対応ができるよう時間帯は決めさせていただいています。入浴剤や湯温等はできるだけご希望に添えるよう支援しています。	毎日13時から15時を入浴時間として設定し、1日で3名の入浴を行い、利用者1人につき週2回の入浴を確保しています。入浴拒否の場合は、時間をずらしたり、職員を変えるなどしています。利用者の意向に合わせることで入浴を楽しむことができるよう配慮しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々の生活習慣や状況に応じて過ごしていただくよう個室とフロアを自由に行き来し過ごしていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬や薬局でセットされたものを用いています。職員間で服薬情報を共有しています。服薬時は職員2人によるダブルチェックを実施しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ピアノ伴奏に合わせて歌う機会を設けており、希望者には参加していただいています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	各ご利用者様の歩行状態に応じて、散歩や外気浴を実施しています。歩行速度が早く他者と歩調を合わせられない方は1対1の対応で散歩を実施しています。	日常的な外出支援として、職員1名と利用者3名の組み合わせで、近隣を散歩しています。墓参りなどの特別な外出支援は家族に対応してもらっています。外出困難な利用者には、玄関前での外気浴を楽しんでもらっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現在自身での金銭管理が可能な方がいないため、御本人に所持や使用はしていません。ご希望があればご家族等にお伝えして購入をしていただいています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話や手紙のやりとりは、ご利用者の希望に沿って支援しています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用部分には季節ごとに制作レクの作品や行事写真等を飾っています。また温度管理や定期的換気等も実施しています。ご本人の特性や相性等も考慮し、席位置を決めています。	利用者が日常生活を過ごすリビングは、2フロアとも東南向きで日差しが適度に降り注ぐ快適な環境となっています。季節ごとの装飾や利用者がレクリエーションにて作成した作品やイベント時の写真などを飾り、アットホームな雰囲気を作り出しています。なお、配席は利用者の相性を配慮したものとしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ご本人の特性や相性等も考慮し、席位置を決めています。またソファを設置し、自席以外で過ごせる場所も提供しています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自室には使い慣れたテレビや机、衣装ケース、ラジオ、仏壇等をご自由に持ち込んでいただいています。	居室へは、利用者が使い慣れたものを本人や家族の意向に沿って持ち込んでもらっています。事業所の備え付け備品に加え、退居者の家具等の活用も積極的に行い、資源の有効利用に努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	室内はすべてバリアフリーとしています。また必要があれば自室の入口に写真や名前を貼って分かりやすくする等の対応を心掛けています。		

事業所名	グループホームあいかわ
ユニット名	3階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1, 毎日ある
		○	2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
		○	3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		○	2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	入職時には必ず事業所理念を説明しており、玄関に掲示し、身近に理念を感じて実践に繋げるようにしています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近隣で行われているどんど焼きに参加しました。子供神輿に協力してもらい、駐車場で披露してもらいました。花火大会をご近所の方と一緒に鑑賞しました。自治会の秋祭りに参加しました。飾りのお花を作成しました。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	中学生の職場体験を受け入れしています。今年も2名の受け入れがあります。また近隣住民からの相談に対応し、介護保険の申請やサービスの相談等を受けています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月ごとに開催しています。民生委員、地域包括支援センター、近隣住民の方にご参加いただいています。事業所報告書をお渡しし、行事や事故、入退去当施設の現状をご報告し、ご理解をいただいております。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	書類申請時等に最近の状況や困りごと等の相談をしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	年に2回の研修を実施しています。「虐待の目チェックリスト」等のような行為が虐待にあたるのか周知に努めています。「身体拘束チェックリスト」によりどのような行為が拘束にあたるのか確認しています。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	年に2回の研修を実施しています。「虐待の目チェックリスト」等のような行為が虐待にあたるのか周知に努めています。問題があれば注意喚起をしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度を活用しているご利用者様がいらっしゃいます。また現在申請中の方もいらっしゃいます。ご家族や地域包括支援センターの方が対応してくださいました。今後は自分たちでも活用できるようにしていきたいです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入退去の際は利用者様やご家族様に十分な説明を行い、ご理解・ご納得をしたうえでのご利用開始を心掛けています。また質問等は随時受け付けており、いつでも不安点が解消できるよう努めています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	様々な意見を気軽に出せるよう玄関に意見箱を設置しています。また電話や口頭にて得られた意見や要望に対し、管理者・職員ともに情報を共有し、運営に反映するようにしています		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	法人では職員専用の意見箱を設置し、職員の意見や要望を聞く機会を設けています。また意見箱には鍵をかけ、法人本部でしか開封できないように配慮しています。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者は必要に応じて個人面談を実施する等状況把握に努めています。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	無資格者にはオンラインによる研修を義務付けており、現在の在職している無資格者職員はすべて研修を終了しています。また月1回研修を実施しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域ケア会議等に参加し、交流する機会を得ています。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービスの利用を開始する段階で、ご家族様やご本人より情報を得て、職員間でアセスメント情報を把握し、ご本人が安心して暮らしていけるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご自宅での様子や困りごと、不安、要望等を聞き、信頼関係を築けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	初期対応においてはご本人とご家族双方から話を聞き違いを把握し、「その時」必要なサービスを模索しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	各ご利用者様の心身状態に応じて、役割をもって過ごしていただいています。各々得手不得手を把握し、力を発揮できるよう配慮しています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の心身状態にも注意を払い、ご家族の思いも組み込んで必要なサービスを提案させていただいています。介護負担が増大しないよう注意しています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	通常、ご家族やご利用者様の面会や外出は自由となっており、相談や支援に努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	個々の特性や症状、相性等を考慮して席の配置等を工夫しています。ご利用者様、スタッフが関わりあえる距離感を大切にしています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	終了後もご家族や次施設、病院等に現状確認を行っています。また契約終了後もその後の経過等をお話しに来訪していただくことも多いです。また転居した先での困りごとや対応に苦慮している等の相談にも		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活において会話や行動等に気を配り、ご本人の内にある「思い」とくみ取れるよう日々努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人やご家族様より聞き取りを行い情報収集に努めています。また得られた情報はスタッフ間で共有し、日々のケアに活かすようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個々の心身状態や能力等について各スタッフが気が付いたことや対応について、常に報告し合い、状態把握に努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	一か月に一度はケアカンファレンスを開催し、スタッフ間で意見を出し合い、情報共有に努めています。ご家族やご本人等の意見も反映させ、現状に即した介護計画書を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人記録に水分・食事・排泄・服薬・生活の様子等を記録し、現状の把握に努めています。また、申し送りノートやケアカンファレンス会議等で情報を共有しながら柔軟な対応を心掛けています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	1階から3階までのご利用者で合同の催しものを開催しています。いつものとは違う雰囲気やメンバーで過ごしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	役場にも頻回に来庁し、新しい取り組み等があれば利用していきます。また地域の方々や、ボランティアの来訪等ご利用者様が暮らしを楽しむことができるよう支援しています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	当施設の運営は医療法人となっているため定期的な往診・一般検査・訪問看護・訪問歯科を実施しています。また専門外の受診には外部受診にて対応しており、ご家族や職員付き添いの下おこなってます。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	体調面や変化等日常的な関わりの中で得た情報をスタッフが把握し、相談し共有しています。また褥瘡予防の方法や安全な体位変換等の指導をいただいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中はご家族や病院担当者と連絡を密に取り、現況の把握に努めています。病状によっては担当者・家族と相談の機会を設け、今後の対応等について検討しています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所時に重度化した場合や終末期に向けた方針や事業所として対応ができることについて説明をし、共有しています。状況変化に応じてご家族様の気持ちが変わることもあるので、都度状況を説明し、対応を検討しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時連絡先や避難経路の掲示をしています。また消防署点検や警報器点検のタイミングで火事や地震を想定した避難方法の確認・シュミレーション等を行っています。また急変時の対応についてチャート記載し、冷静に対応できるようにしています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	ご利用者様にも参加していただいておりますが、安全面を考慮して日中での実施となっています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	事業所理念、ケア理念、職員行動指針を掲示し、出退勤時に確認ができるようにしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	積極的に声掛けを行い、本人の意思を反映できるように努めています。また日常生活において行動にも注視し、声にならない思いもくみ取れるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	フロアで過ごす方、「食後は居室で」等各々の習慣や希望に合わせた対応を心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご自分で洋服を選んでいただいています。また好みに合わせた服を持ち込んでいただいています。訪問カットの際は美容師さんとご本人で相談して髪型を決めていただいています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	ご利用者と職員は一緒に食事をしています。食事の片付けは身体状況等を考慮した上でご利用者様にお手伝いしていただいています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食材・献立は外部に発注し、栄養バランスのとれた食事が提供できるようにしています。また嚥下や口腔状態に応じて刻み食やトロミ等の対応を心掛けています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後個々に応じた口腔ケアを実施しています。月4回の訪問歯科の際に助言・相談・指導を受けています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々の状況に応じて御本人ではできない部分を重点的に介助するようにしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄チェック表を活用し、排泄パターンの把握に努めています。排便がなければ歩行により腸の運動を促進したり、医師からの処方の下剤を適用する等し、便秘予防に取り組んでいます。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	月～土の13～15時と時間は決まっていますが、湯温等は好みに近い状態で提供できるように心がけています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々の生活習慣や状況に応じて過ごしていただくよう個室とフロアを自由に行き来し過ごしていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬や薬局でセットされたものを用いています。職員間で服薬情報を共有しています。服薬時は職員2人によるダブルチェックを実施しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ピアノ伴奏に合わせて歌う機会を設けており、希望者には参加していただいています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	各ご利用者様の歩行状態に応じて、散歩や外気浴を実施しています。歩行速度が早く他者と歩調を合わせられない方は1対1の対応で散歩を実施しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現在自身での金銭管理が可能な方がいないため、御本人に所持や使用はしていません。ご希望があればご家族等にお伝えして購入をしていただいています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話や手紙のやりとりは、ご利用者の希望に沿って支援しています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用部分には季節ごとに制作レクの作品や行事写真等を飾っています。また温度管理や定期的換気等も実施しています。ご本人の特性や相性等も考慮し、席位置を決めています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ご本人の特性や相性等も考慮し、席位置を決めています。またソファを設置し、自席以外で過ごせる場所も提供しています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自室には使い慣れたテレビや机、衣装ケース、ラジオ、仏壇等をご自由に持ち込んでいただいています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	室内はすべてバリアフリーとしています。また必要があれば自室の入口に写真や名前を貼って分かりやすくする等の対応を心掛けています。		

2024年度

事業所名 グループホームあいかわ
作成日： 2025年 2月 13日

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	今回の避難訓練では各階の踊り場への避難 となっていますが、次回の訓練においては 消防署の指導の通り、各階のベランダへ避 難する訓練が期待されます。	避難訓練を実施する。	消防署の指導のもと複数の避難場所を 確保する。各避難場所に対する訓練を 実施する。	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月